

大規模・ミッションクリティカルな受発注サービスを確実に支える Egenera BladeFrame®

パナソニック電工インフォメーションシステムズが提供する製造業向けの大規模受発注処理で、「Egenera BladeFrame®」が使われている。製造業をはじめとする様々な分野の企業に対しサービスを提供する同社が、BladeFrame を標準サーバーのひとつとして採用を決めたためである。障害時の素早いフェールオーバーなどにより、少人数での大規模なシステムの運用・管理を実現可能としたことが、選択のポイントだった。

膨大な受発注処理をEgenera BladeFrame® が支える

パナソニック電工インフォメーションシステムズ(以下、パナソニック電工IS)では、情報システムの開発から運用までを請け負っており、製造業向け受発注処理サービスの提供にあたり、「Egenera BladeFrame®」を採用した。ここではバックエンドのメインフレームと連動するサーバーとして約45ブレードが稼動している。

パナソニック電工ISは1999年にパナソニック電工(旧松下電工)の情報システム部が独立して設立された。パナソニック電工だけでなくその関連会社や、その他の一般の企業に対しても情報システムのアウトソーシング事業を展開している。40年以上の長い年月、パナソニック電工の情報システムを設計から運用・管理まで手がけてきた経験により蓄積された豊富なノウハウと技術により、優れたアウトソーシングサービスを提供している。

Egenera BladeFrame® 上で稼動しているシステムでは、製品を販売する関連会社や販売代理店、取引先などからの受発注トランザクションの受付を Web インタフェースを介して行う。この部分で45ブレードが稼動している。

このシステムでは、10万台を超える端末が接続されても正常に処理を継続できるように設計された。現在の接続端末数は数万台程度だが、約4年前は現在の約10分の1の数千台程度だった。インターネットの普及と共に、急速に端末台数が膨れ上がっている。このことを考慮して、余裕をもった設計を採っている。

省スペースと拡張性、可用性がサーバー選択のポイント

Egenera BladeFrame® を導入した最初のきっかけは、サーバールームのスペースが逼迫してきたためである。パナソニック電工ISが、オープン系のサーバー用として確保しているスペースは、約2,000台のサーバーが設置できるフロアである。導入を考えたのは、そのスペースに約600台から700台のサーバーが設置され、今後もサーバーが増え続けると見込まれたためである。

「当時、サーバー統合という言葉はまだ普及していなかったが、複数のサーバーを統合したり、サーバーのスペースを集約したりすることが急務だった。さまざまなサーバーをあらゆる面で比較して、いくつかの選択ポイントから、Egenera BladeFrame® に決定した」とパナソニック電工IS 執行役員 IDCビジネス本部 本部長の田中啓介氏は、サーバー導入を振り返った。

「省スペースのサーバーとして、通常のラックマウント型からブレードサーバーまで数多く比較検討した。国内ブランドはもちろん、海外の無名なベンチャーの製品まで取り寄せてテストした」と、IDCビジネス本部 サーバーソリューション事業部の八木 洋至氏は、真剣なサーバー選定の姿勢を強調した。

企業 PROFILE

Panasonic
ideas for life

パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社

1999年2月、パナソニック電工株式会社(旧松下電工株式会社)の子会社として設立。

コンサルティングからフルタイム保守まで、情報システムを創造する最先端技術集団として、パナソニック電工を支えてきた豊富な実績とノウハウ、そして高度な技術力を武器に、お客様の立場に立った、きめ細やかなサービスを提供している。

<http://www.panasonic-denko.co.jp>

執行役員
IDCビジネス本部
本部長
田中 啓介 氏



IDCビジネス本部
サーバーソリューション事業部
八木 洋至 氏



こうした厳しいサーバー選択のテストで、Egenera BladeFrame® が頭一つ抜けていたのが、障害時の復旧処理だった。「膨大な数のサーバーを、限られた人数で運用・管理しなくてはならない状況だった。長い時間、多くのサーバーを運用すれば、必ず障害は起きる。障害が起こったときに、できるだけ人手をかけず、迅速に復旧させられる必要があった。Egenera の製品は、障害のあるハードウェアが自動的に切り離されて、共用の待機用ブレードが自動起動して処理を引き継ぐ。スクリプトを作っておけばアプリケーションまで自動起動させられる。ここまでの復旧処理が数分で完了する。他のサーバーより断然抜きん出ている」(八木氏)。

もちろん、省スペースも目的なので、性能あたりのスペースが小さいこと、そして拡張性などが評価ポイントになった。ブレードを追加するだけで、簡単に処理能力を高められることも高く評価された。

さらにパナソニック電工ISでは、社内共用のストレージとして3PARdataの製品を導入していた。このため、これに接続してお互い

の特長を引き出しあえる必要があった。

ここで選択したサーバーは、パナソニック電工 IS の標準システムのひとつとなる。そのため、非常に慎重に選択する必要があった。「システムの開発と運用は、担当が分かれている。これまでは開発側がハードウェア、OSを含めたプラットフォームを選択して、ミドルウェアやDBを使っていた。しかし、運用する側は多種類のハードウェアや OS、ミドルウェア、DBのすべての運用をしなくてはならなくなる。今後もシステムが開発されてサーバーが増えれば、とても少人数では管理しきれない。そこで全社の標準プラットフォームを決めてシステム構成の種類を絞ることにした。Egenera BladeFrame® はミッションクリティカルな処理の標準サーバーとして採用した」(八木氏)。

顧客に対する IDC サービスでも BladeFrame の利用を推奨

パナソニック電工 IS では BladeFrame を受発注処理以外にも利用している。一つは、商品情報・資料を、主に建築会社や設計事務所に提供するためのコンテンツ配信システム。さらに、EDI システムや他社とのデータ連携を実現させるためのゲートウェイシステムなどにも BladeFrame が

使われている。

また、一般顧客に対しても BladeFrame 上でサービスを提供する計画がある。パナソニック電工 IS では、IDC のサービス事業を展開している。ここで、ミッションクリティカルで規模も大きなシステムについては、BladeFrame によるシステムのホスティングを提案している。「BladeFrame については、導入の検討から含めて非常に豊富なノウハウが蓄積されている。一般的な Web システムなどではオーバースペックだが、高い信頼性と可用性が求められるシステムでは BladeFrame が向くと考えている」(田中氏)。

パナソニック電工 IS では、サーバー強化の計画が迫っている。「近くブレードを追加する予定がある。適用分野も広げる計画だ。費用の折り合いさえつけば、すべてのサーバーを BladeFrame に移行させたい」(八木氏)。

巨大なネットワーク網と大規模データセンターを保有し、高度な技術力と実績、ノウハウを持つパナソニック電工 IS において基幹部分で採用された Egenera の BladeFrame。これからも、高度な情報サービスを力強く支え続けるだろう。

稼働システムの代表例 (2006年 1月)

Panasonic
ideas for life

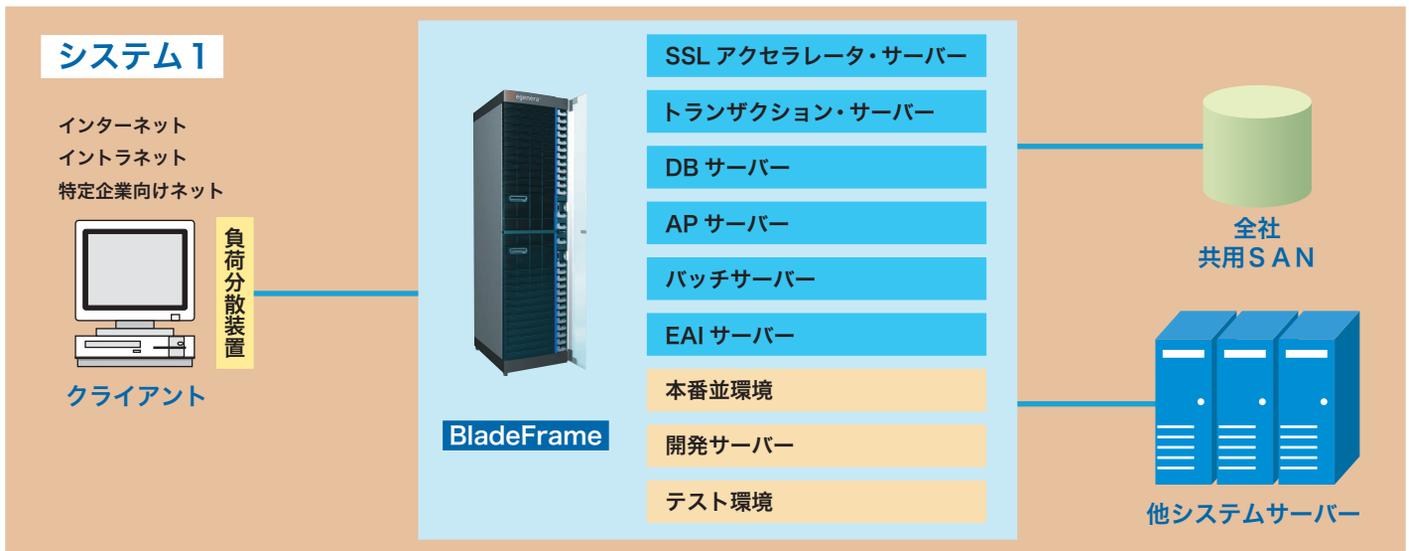
システム 1	受発注システムの web インターフェースシステム
45 ブレード	稼働時間 無停止 利用者数 数万ユーザー (現行の約 10 倍の増加を設計上想定済)
システム 2	商品カタログコンテンツ配信システム
4 ブレード	稼働時間 無停止 利用者数 数万ユーザー
システム 3	EDI システム
4 ブレード	稼働時間 無停止 利用者数 数千ユーザー
システム 4	他社ネットワーク宛データ連携 GW システム
1 ブレード	稼働時間 日曜深夜のみ停止 (5 時間) 利用者数 数百ファイル/時



稼働中 pServer・・・60
待機用 pBlade・・・5
検証用 pBlade・・・2

ミッションクリティカルなシステムにのみ適用

<他4システム>



The
Data Center
Virtualization
Company

イージェネラ株式会社

〒163-0806 東京都新宿区西新宿 2-4-1 マーケティング本部
TEL : (03) 5321-7157 FAX : (03) 5321-7158
Email : info-jp@egenera.com URL : http://japan.egenera.com